

# 教育家庭新聞

健康・環境  
体験学習

発行所  
教育家庭新聞社  
東京都台東区浅草橋3丁目1番8号  
TEL: 03-3864-8241(代)  
FAX: 03-3864-8245  
郵便番号111-0053  
郵便振替口座00130-9-53593

人と自然を大切にしたい価値ある製品づくりを  
株式会社 トンボ  
本社/〒700-0985岡山市北区厚生町2丁目2番9号  
TEL: (086) 232-0311(代) FAX: (086) 225-6691(代)  
http://www.tombow.gr.jp  
トンボ学生服

## 緩やかに体力向上

### 合計点が1位に「H22年度体力・運動能力調査」

国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るため、文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」の平成22年度調査の結果が公表された。調査によると、新体力テスト施行後13年間の合計点の年次推移をみると、小学校高学年以上の年代では、緩やかな向上傾向となっていることがわかった。

調査は、新体力テスト施行後(平成10年度)の走・跳・投能力の状況について、平成19年度調査では「低下の傾向を示していない」こと、20年度調査では「ほとんどの項目で横ばい及び向上の兆しがみられる」こと、21年度調査においては「すべての項目で横ばい及び向上がみられる」ことが示された。

そのことから、22年度も引き続き、11歳、13歳、16歳の走・跳・投能力について、長期的推移及び新体力テスト施行後の推移を分析。

6歳から19歳の「青少年期」の体力・運動能力は、長期的にみると、握力及び走、跳、投能力にかかる項目は、体力水準が高かった昭和60年ごろと比較すると、中学生男子の50歳走、ハンドボール投げを除き依然低い水準が示された。

6歳から19歳の「青少年期」の体力・運動能力は、長期的にみると、握力及び走、跳、投能力にかかる項目は、体力水準が高かった昭和60年ごろと比較すると、中学生男子の50歳走、ハンドボール投げを除き依然低い水準が示された。

と、男女共に35歳から39歳の合計点が低下、25歳から29歳においては男子が横ばい、女子は低下を示した。一方で45歳以上の男女の合計点は向上を示している。成年期においては、若い世代の体力の低下傾向が顕在化し始めていることが伺える。このことは、運動・スポーツの実施頻度にも現れており、昭和60年度と実施頻度の年次比較をみると、20歳から30歳代の「ほとんど毎日」する人の割合は、男女共にあまり変化がみられないが、「少ない」人の割合は増加傾向にある。一方で、40歳以降では「ほとんど毎日する」人が増加傾向にある。

また、中学・高校の運動部(クラブ)活動経験と、体力・運動能力の関係をみても、20歳以上のすべての年齢階層で「中

学校・高校」で経験してきた群が、「中学校のみ」群よりも高い値を示している。

全体的な傾向として、男女共に6歳から加齢に伴い体力水準は向上し、

H24年度概算要求  
スポーツに236億円

平成24年度の文部科学省の概算要求では、スポーツ関係に236億円を要求・要望額としており、対前年度比3.6%の増額で、スポーツ立国の実現を目指している。

新規事業として「ナショナル競技力向上プロジェクト」に41億円、「障害者等スポーツ活動重点推進プロジェクト」に13億円があげられ、「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」は3億円増。

世界で競い合うトップアスリートの育成・強化やライフステージに応じたスポーツの機会を創造することで、世界共通の人類の文化であるスポーツに関する施策を、国家戦略として総合的・計画的に推進していくとされている。国全体がスポーツをする機運が高まることで、各年代においての格差がなくなることを期待したい。

### 九州教育旅行 現地視察会

長崎・佐賀・大分・福岡へ

【視察先】長崎県・松浦地区(民泊体験視察)・グラバー園・原爆資料館・平和公園 佐賀県・有

田体験視察・陶磁文化館(大分県)・威宜園・屋形船(日田温泉)・豆田町福岡県・大刀洗平和記念館・環境ミュージアム・いのちのたび博物館 ※変更になる場合もあります

【参加対象】近畿・中国・四国の学校の教職員

【参加費用】3万円(新大阪または最寄りの新幹線駅から現地への往復交通費、現地移動中の交通費、食費・宿泊(1人部屋)・入場・体験・保険料を含む) ※終了後新聞掲載料を別途提出(原稿料を支払います)

【応募方法】FAXまたはメールで名前、年齢、自宅及び勤務先の住所と電話番号、携帯電話番号、勤務校の平成23年、24年度の修学旅行先を明記し、11月21日(月)まで

## 人仕事人生

国連の広報活動の支援を目的に、「生命(いのち)の尊厳や「地球環境保全」の大切さを国際社会に訴え続けているNPO法人国際連合活動支援クラシックライプ協会。「生命(いのち)のコンサート」を基盤としたレベルの高い舞台活動を通じて、国連広報活動を中心とした国際交流や青少年の育成、地域文化への寄与、伝統文化の継承、ボランティア推進活動を行っている人権擁護団体だ。

11月19・20日には、「生命(いのち)のコンサート」活動の一環として、東京国際フォーラムで音楽劇「赤毛のアン」からの手紙」が開催される。今回の公演では、A席当日指定の内500枚をチャリティーチケットとして販売。チケットリピーター、プロなどで



音楽劇「赤毛のアン」20周年  
国連クラシックライプ協会理事 小池 雅代さん

1992年カナダ大使館で構成されている。「1992年にドイツ語で公演し、翌93年にはニューヨークで英語公演を行いました。以降フランス語、中国語でも公演しています。言葉の問も、その内一つでも同じ景

## 命や絆の尊さを思う舞台から 「今ここに生きる」意味かみしめて

1992年カナダ大使館で構成されている。「1992年にドイツ語で公演し、翌93年にはニューヨークで英語公演を行いました。以降フランス語、中国語でも公演しています。言葉の問も、その内一つでも同じ景